

佐賀県鹿島市 *Press release*

報道機関 各位

部課名 産業部 商工観光課

件名	有明海のさかなたちについての講演が開催されます。
概要	講師に木下泉氏を招き、「有明海のさかなたち－魚類のゆりかご(成育場)への科学的再考－」をテーマに鹿島市干潟交流館「なな海」で講演が開催されます。
説明	◇イベント概要 (1)日時 令和6年1月14日(日)13時30分～15時00分 (2)場所 鹿島市干潟交流館2階 学習室 (3)講師 高知県安芸漁協顧問 高知大学名誉教授 木下 泉 氏 (4)参加費 無料 (5)予約不要
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

本件に関する問合せ先

所属	商工観光課
氏名	宮崎 剛史
TEL	0954-63-3412
FAX	0954-63-2313
Mail	rousei@city.saga-kashima.lg.jp

有明海のさかなたち

— 魚類のゆりかご(成育場)への科学的再考 —

講演：木下 泉氏

高知県安芸漁協顧問 (<http://www.if-aki.jp/pg397.html>) 高知大学名誉教授

有明海の正式呼称は、実は「島原湾」であり、有明海はこの湾の北部の水深 10 m 前後の水域に過ぎない。しかしながら、我国ではここでしか生息しない固有魚種(特産魚種)であり大陸産存種が 8 種(エツ、アリアケシラウオ、アリアケヒメシラウオ、ヤマノカミ、ハゼクチ、ムツゴロウ、ワラスボ、デンベエシタビラメ)確認されており、いずれも、北部河口域を「ゆりかご」(成育場)としている。それらの生活様式は様々であり、有明海に注ぐ河川によっても異なっていることが、最近の研究によって明らかになってきた。すなわち、一河川が一つではなく、有明海全体が一つなのである。これは、まさに生物多様性であり、十分に明らかにされないまま、諫早湾潮受堤防、筑後大堰や佐賀空港干拓などの巨大事業に呑み込まれてしまった。今回、これら有明海の魚たちの現況を新しい知見を交えて紹介したい。



シーボルト博士が観て、川原慶賀・画伯が描いた有明海の固有魚種たち 左上:エツ、左下:ムツゴロウ、右上:ハゼクチ、右下:ワラスボ。(山口隆男(1996)より転載)

場 所：鹿島市大字音成甲 4427-5 干潟交流館 なな海

実 施：2024 年 1 月 14 日 (日) 13 : 30 ~ 15 : 00

参 加：無料 予約不要

主 催：鹿島市干潟交流館 なな海

問い合わせ：0954-60-5028 ; kouryu01@po.asunet.ne.jp